

近年の農泊先進地で 見られる傾向と対策 I

～特に学校教育旅行とインバウンドについて～

令和6年3月

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 花垣紀之

I. 農泊のねらい

“農泊(農林水産省)”のイメージ



“地域全体”の
集客力の向上

インバウンドの
取込みの拡大

農山漁村への
長時間の滞在
と消費を促す

地域が得られる
利益を最大化
すること

① “農山漁村の活性化”と“所得向上”を図ること

② 農山漁村への移住・定住も見据えた“関係人口の創出の入口”とすること

国が地方に農泊を勧める理由

(経済波及効果、帰国後の購買・再訪、移住定住まで)

円安の追い風

外国人旅行者8人分

国内宿泊旅行者23人分

国内日帰り旅行者75人分

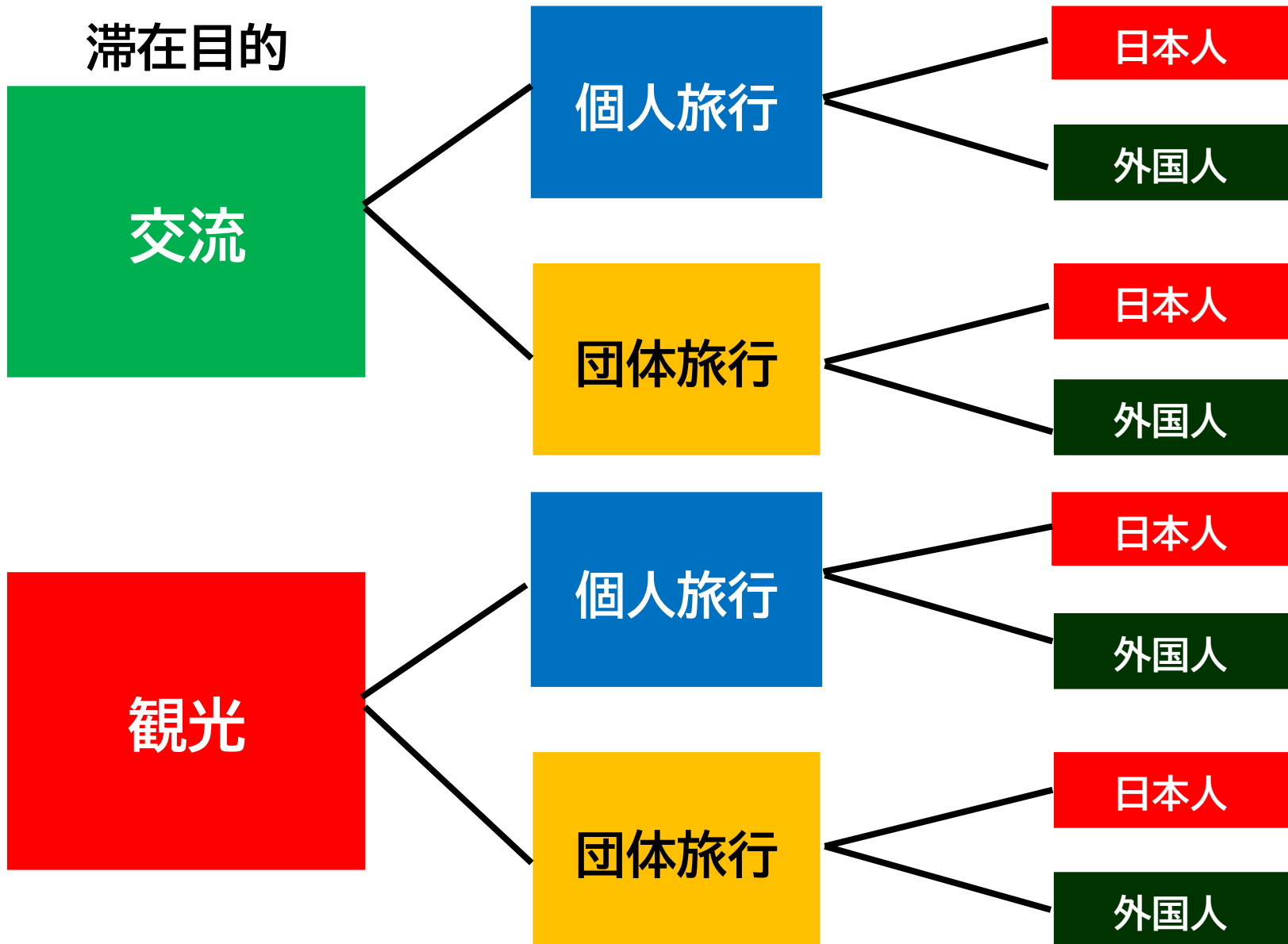
定住人口
1人分減少
年間消費額
130万円減少

既に国内の観光を支えている“外国人人材”

～“留学→日本語習得→雇用”に至る方も～



Ⅱ. “受け入れたいお客様”の区別



1. 交流編

“ホームステイ(民泊体験)”の場合

学校教育旅行(国内・国外)



国際交流(国内・国外)



- “**家族**”として接すること(“お客様扱い”をしない)
- 1回当たり**4名程度**の人数(顔と名前を覚えられる人数)
- **家や地域のお手伝い**をしていただくこと(家事・家業体験)

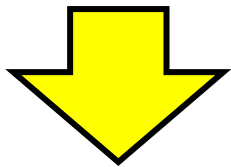
家事・家業の手伝い(生活体験)



地域の日常≡宿泊者の非日常(興味・関心)

お客様と一緒に調理と食事(共同調理)

調理の
お手伝い



家族団らん



副菜

野菜、芋、
海藻や
きのこの
おかず

ビタミンやミネラル、
食物繊維などの供給源
です。三菜の場合はこ
れを増やします。

主菜

魚や肉、
大豆・大豆製品、
卵を主にした
おかず

体の基礎を作るたんぱ
く質源です。野菜も添
えるようにします。

主食

米(ごはん)
などの
穀類

パンやめん類にするこ
ともあります。エネル
ギー源です。

汁

みそ汁や
すまし汁、
スープなど

野菜や芋、海藻、きの
こを使い、副菜と同じ
役割をします。

□メニューは家庭料理が基本です。

※栄養バランスに配慮できる“一汁三菜”(和食のメニュー構成)がお勧めです。

□旬・地場の食材をできる限り使用しましょう(食材も話題のネタに)。

国際交流の場合も“身振り手ぶり”でかなり伝わる

～表情、身振り・手振りなどでゆっくり・繰り返すこと～

メラビンの法則

～コミュニケーションの伝わり具合～

- ① 言葉(内容) 7%
- ② 話し方(音声) 30%
- ③ 体現 55%



筆談の活用(漢字圏)

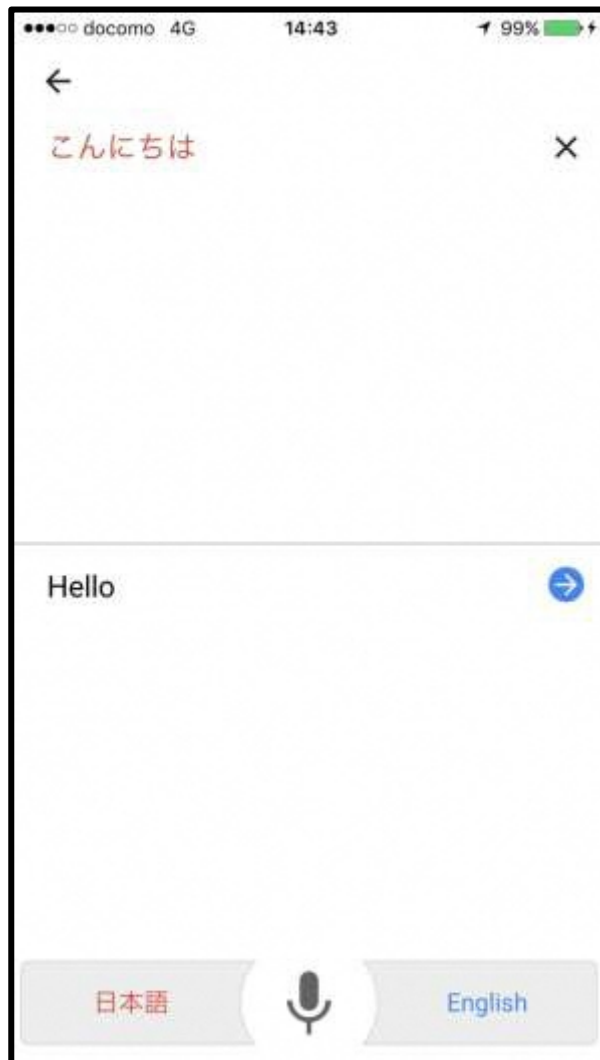
ただし、中国語の表記には注意！

台湾：“繁体字”、大陸：“简体字”



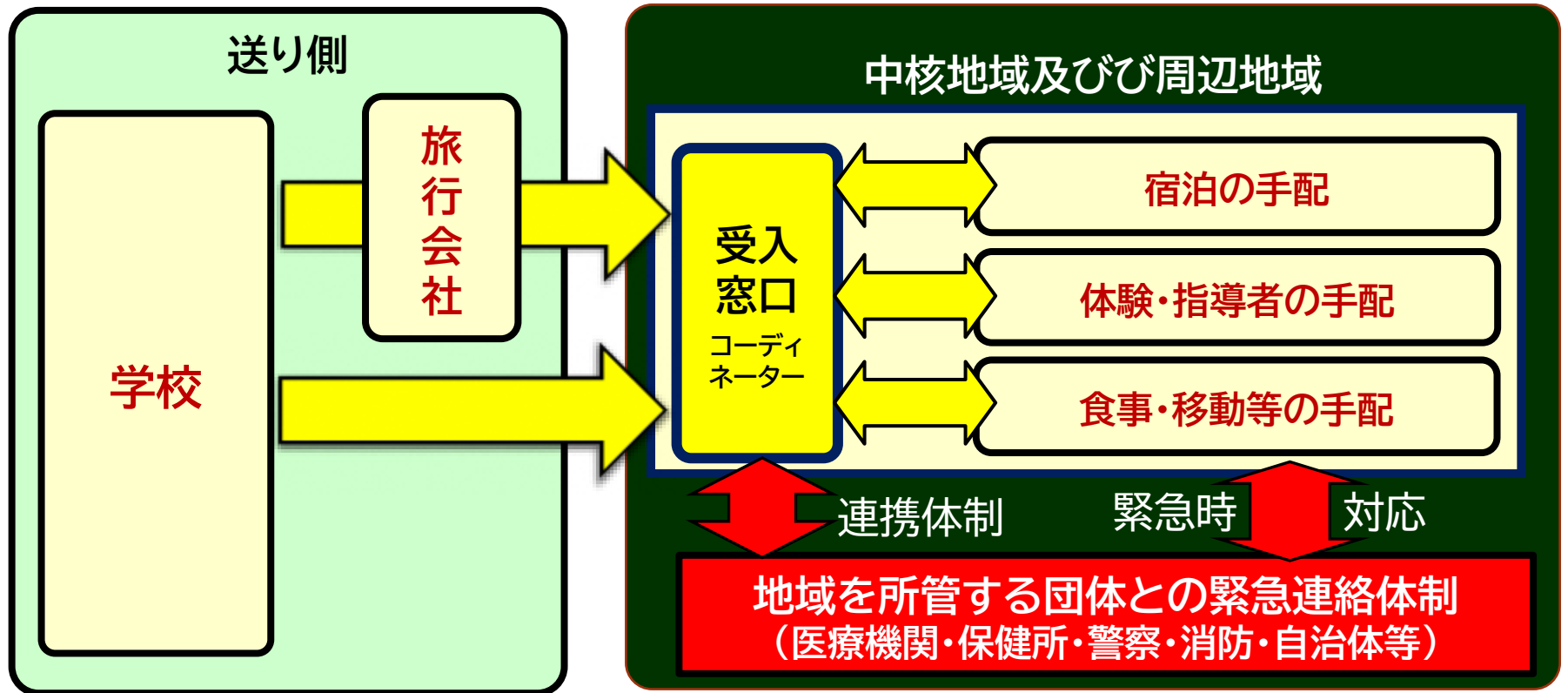
音声翻訳アプリは“だいたい有効”

～Google翻訳は日々進化している～



地域ぐるみでの受入窓口・緊急連絡体制の設置

農家民宿を紹介・手配できる地域の窓口体制



【参考:ふるさとホームステイの受入地域団体の検索サイト】

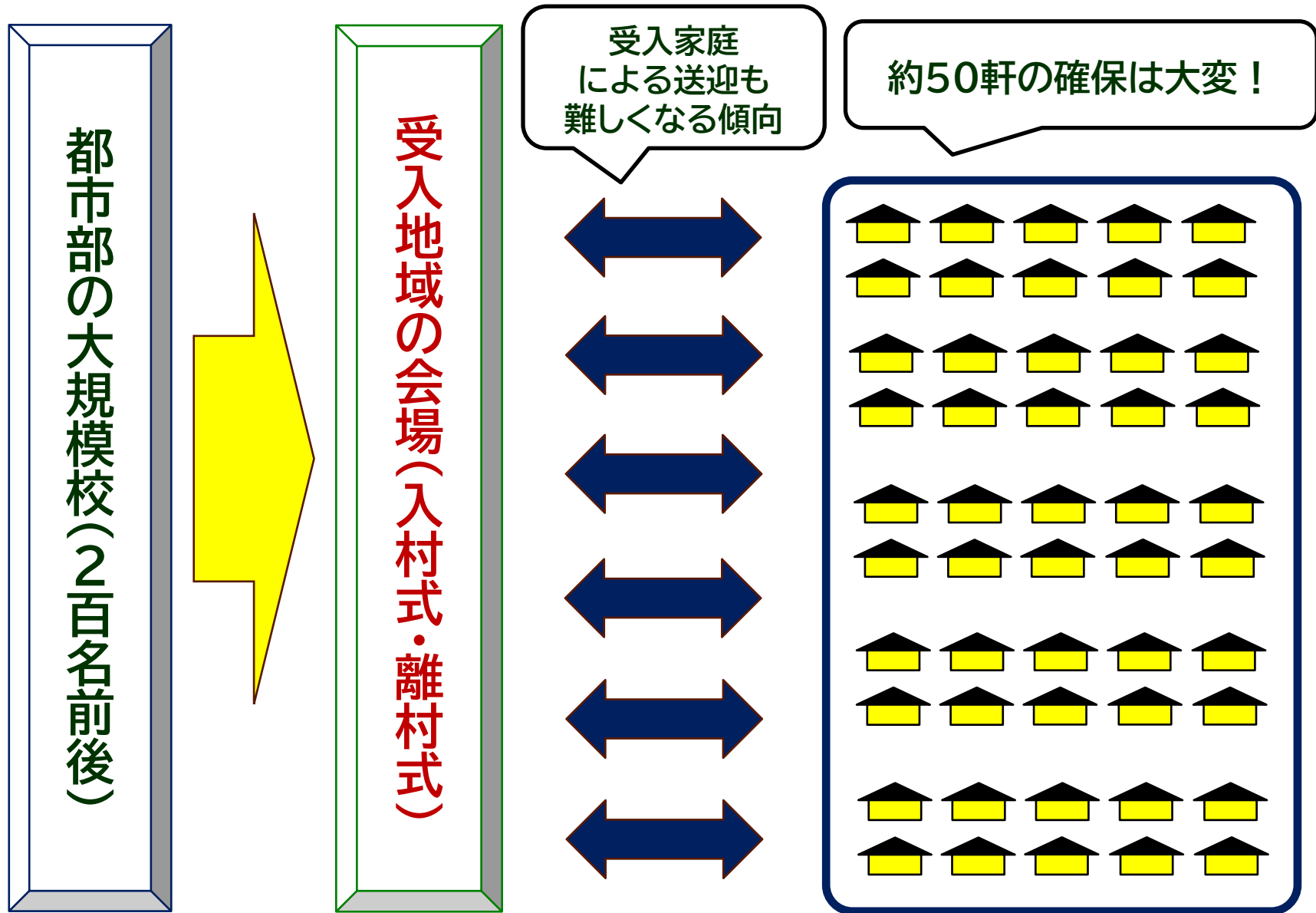
子供の農山漁村体験支援サイト(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部)

URL <https://furusato.jp/>

“ふるさと”



近年見られる課題は“受入家庭先の確保”



対策1: 広域地域による受入家庭の分散受入

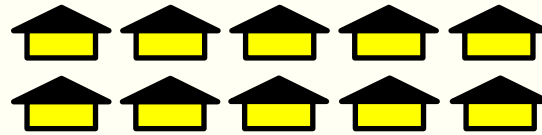
都市部の大規模校(200名前後)

指定場所から貸切バスに分散乗車

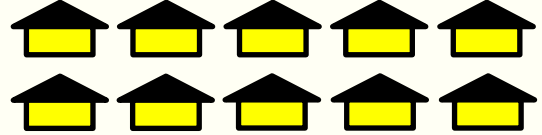
※生徒一斉による入村式・離村式を行わない学校もある



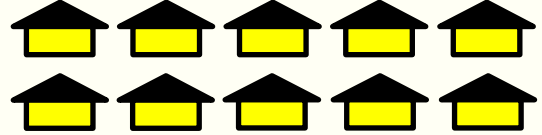
A方面: バス1台分(約40名)



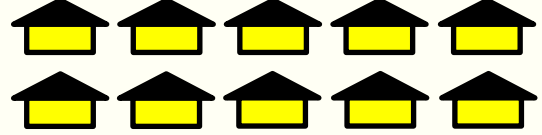
B方面: バス1台分(約40名)



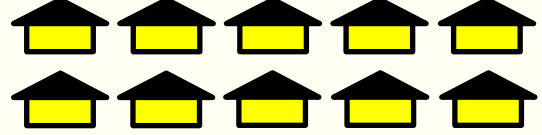
C方面: バス1台分(約40名)



D方面: バス1台分(約40名)



E方面: バス1台分(約40名)

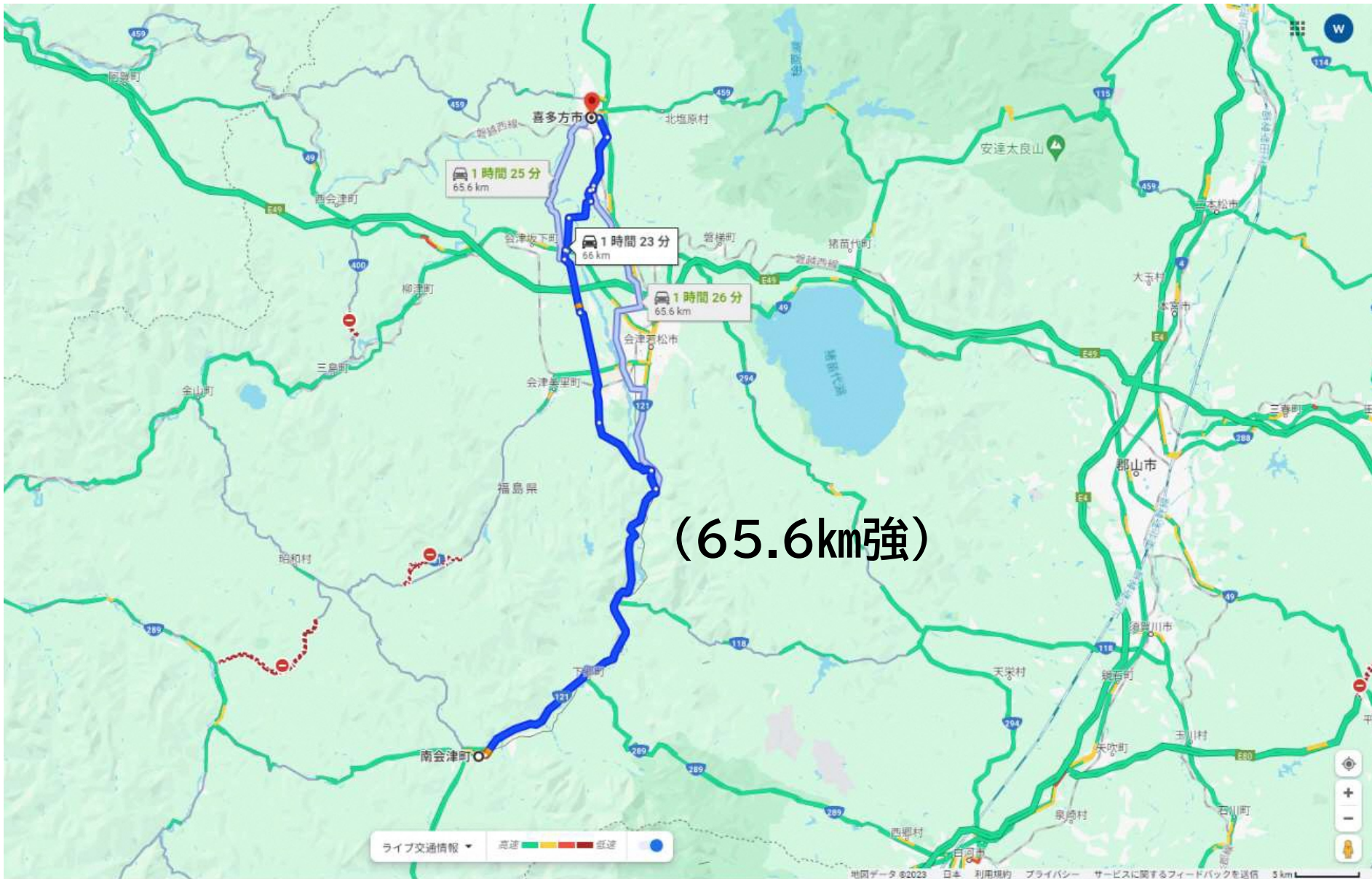


断らないで
受け入れ
られる!

これなら
軒数を確保
できる!

これなら
軒数を確保
できる!

“福島県南会津町+喜多方市”による超広域連携



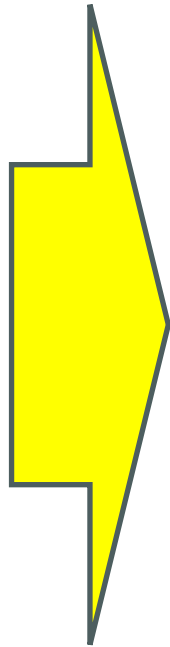
“青森県南部町周辺＋浪岡町周辺”による超広域連携



(112km強)

対策2. 集団宿泊先との連携(見学・交流・体験の提供)

都市部の大規模校(2百名前後)



集団宿泊(大規模校2百名規模)



バス1台分(約40名)で
参加できる
見学・交流・体験の受入体制



バス1台分(約40名)で
参加できる
見学・交流・体験の受入体制



バス1台分(約40名)で
参加できる
見学・交流・体験の受入体制

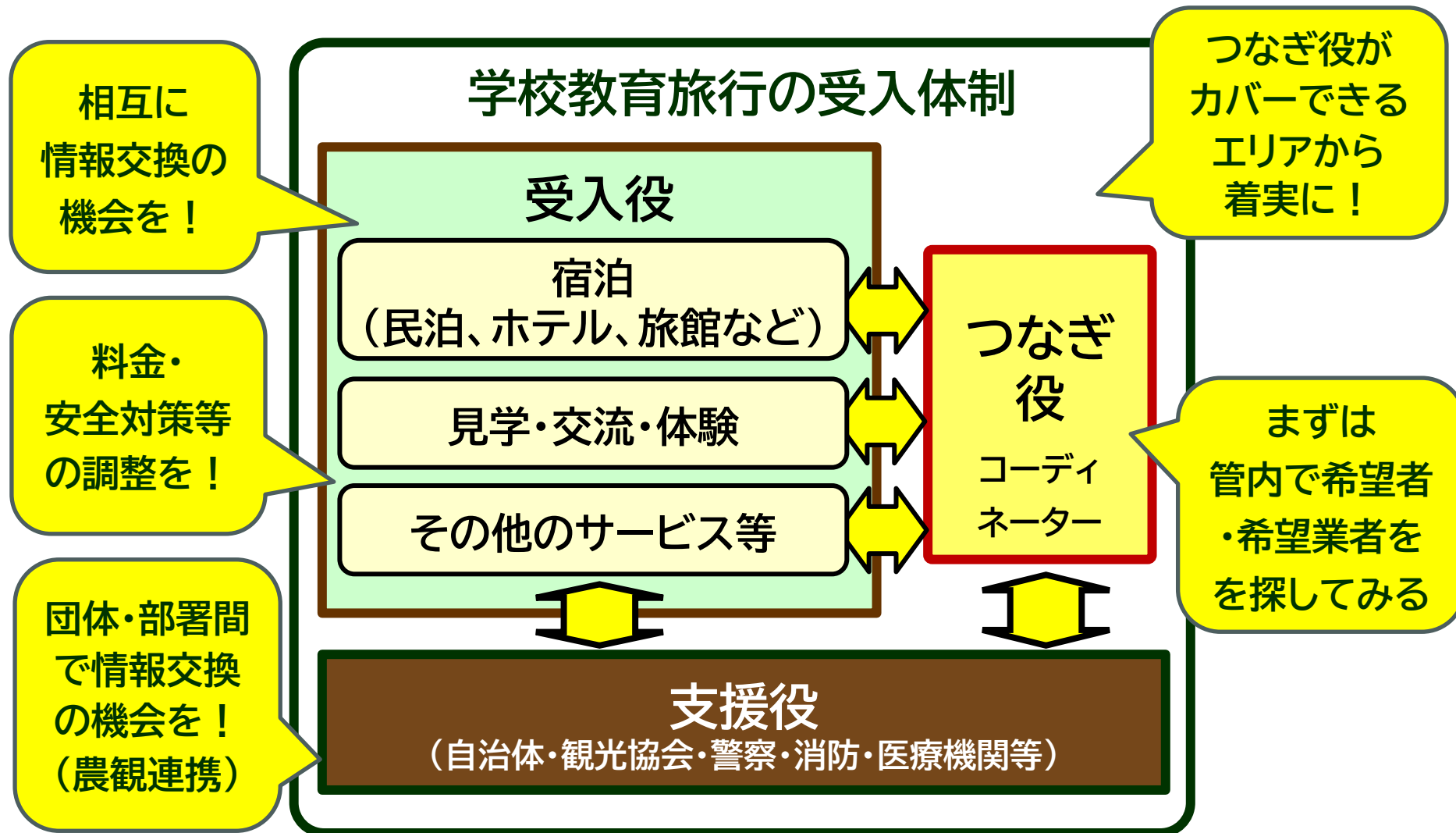


バス1台分(約40名)で
参加できる
見学・交流・体験の受入体制



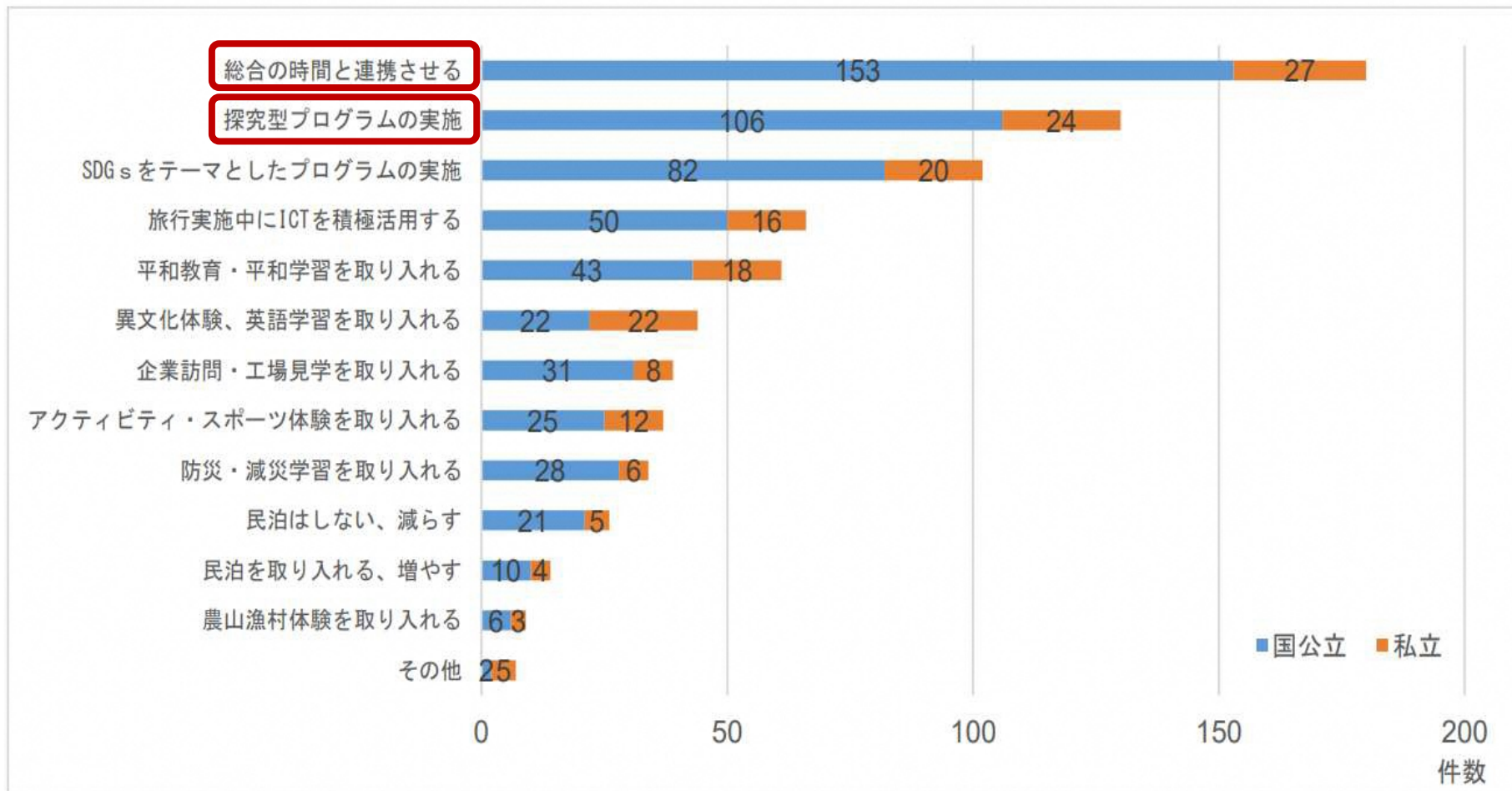
バス1台分(約40名)で
参加できる
見学・交流・体験の受入体制

“広域・超広域”による 多様な滞在を図れる受入体制の創造を



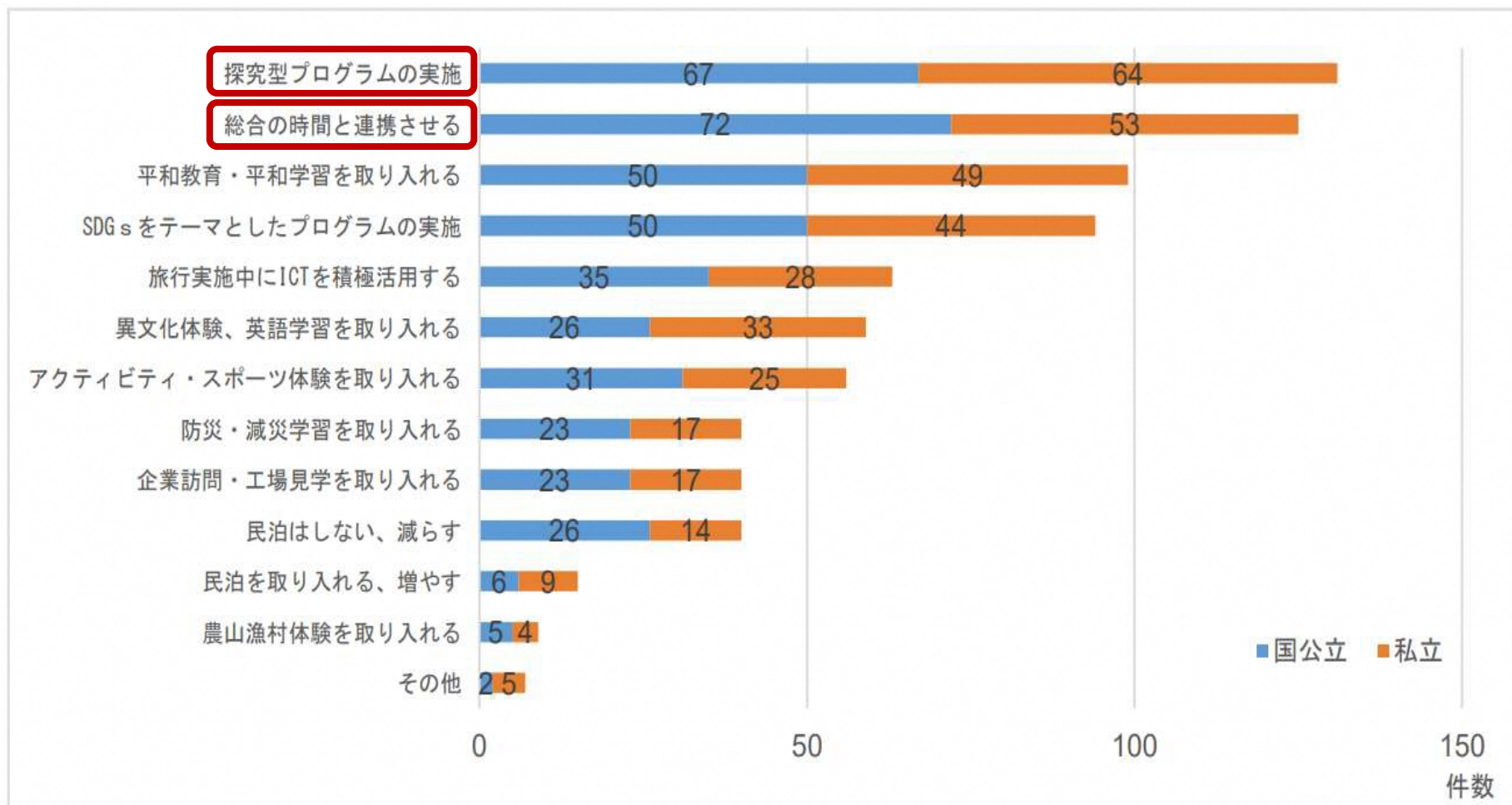
コロナ禍による今後の影響・変化 体験内容・見学場所(複数回答可)

【中学校】

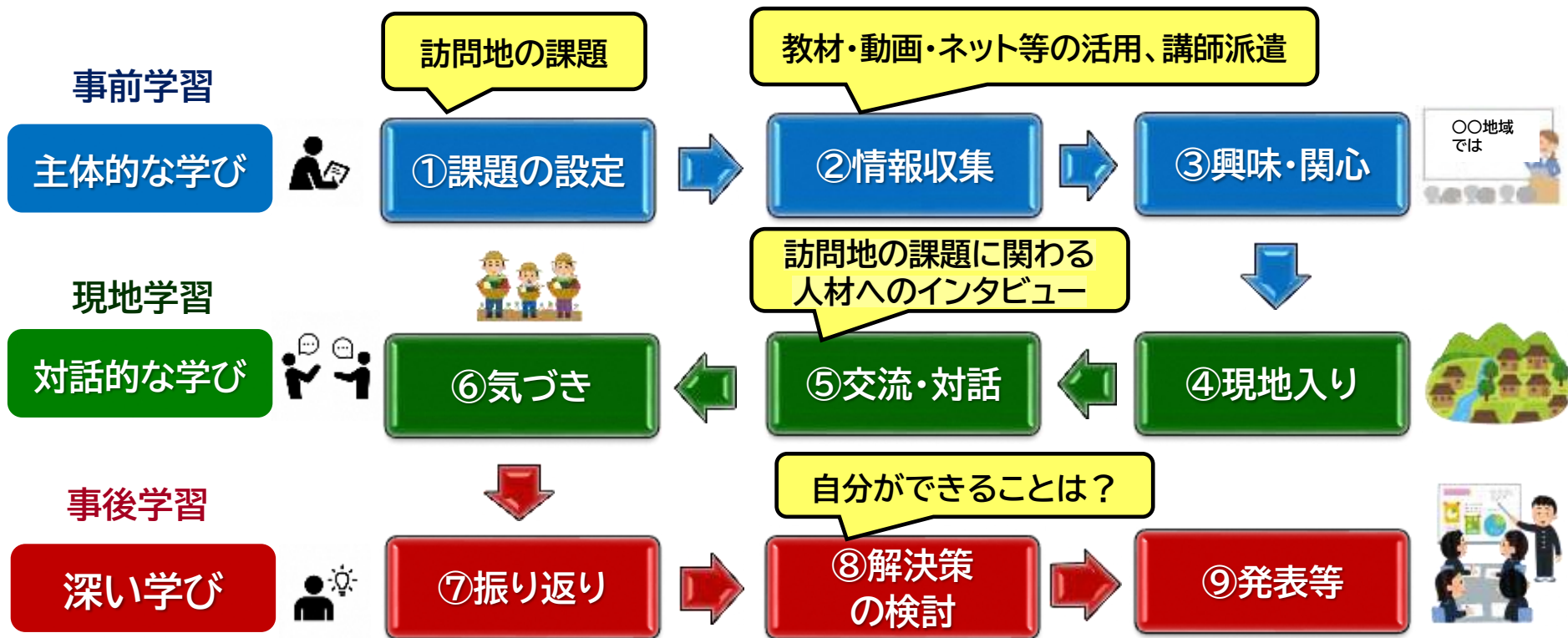


コロナ禍による今後の影響・変化 体験内容・見学場所(複数回答可)

【高等学校】



対策3：“探究的な学習”の現地学習のプログラム化



【学校教育での取扱いは？】

□「新しい学習指導要領」の実施によって、各校で本活動を開始しています。

小学校：令和2年度～、中学校：令和3年度～、高等学校：令和4年度～（順次実施）

※注：対象は“国公立の小・中・高。“私立”では本要領に準じて取り組まれています。

□教科等としては「総合的な学習（探究）の時間」に位置付けられています。

事例:【平和学習×探究学習】長崎SDGs平和ワークショップの概要

修学旅行向け (中学生・高校生) **長崎SDGs平和ワークショップ** 参加料 **¥2,000**
生徒1名様 (会場費含む)

学生自らが主体性を持って学習し、課題を解決する力を養います。

Step 1 ワークシートの活用
SDGs や長崎の歴史など、長崎SDGs平和ワークショップの事前学習にご活用いただけます。また、現地学習では学びを記録し、事後学習では学びの振り返りとしてもご利用いただけます。そして、2030年のゴールに向けた個人のプランを記入することでSDGsへの取り組みが1枚のシートにまとまります。

Step 2 オリエンテーション (10分)
SDGs平和ガイドより、プログラム内容についての説明を行います。その中で、長崎市における平和推進の現状や取組み、課題などをお伝えし、「自分たちが出来ることは何か？」を考えてグループワークに移ります。

Step 3 グループワーク (75分)
各個人が意見を出し、ディスカッションを経て、グループごとに平和推進のために取り組むテーマを決めます。そして、そのテーマについて各個人が取り組むアクションプランを考え、グループの意見をまとめます。SDGs平和ガイドがファシリテーターとして参加し、グループワークのお手伝いをします。

Step 4 まとめ (5分)
SDGs平和ガイドより、各グループの意見を簡単に報告し、様々な意見や新しい考えを参加者全員で共有します。そして、このプログラムをきっかけに、未来の世界平和や2030年のゴールに向けた行動を起こしていただくことを願います。

学校での
事前学習で

なぜ長崎に
原爆が落と
されたのか

今後
どのように
すべきか

落とされて
どうなったのか

現在は
どうなって
いるのか

できることを
実践して
いきましょう！

【シミュレーション】生徒による“ユズの生産農家”を探究する場合

①児童生徒と生産農家による対話(イメージ)

生徒A:(畑を観て)すごいユズの産地ですね。

ユズ農家B:だけど、このまま生産を続けられるか心配なんだ。

生徒A:どうしてですか？

ユズ農家B:高齢者の農家が多いのに、継ぐ農家が少ないからだ。

生徒A:それを解決するにはどうしたら良いと思いますか？

ユズ農家B:もっと●●をしたら若い人が継いでくれるかもしれない。

(※自身が思う解決策については言わない・言い過ぎないこと)

生徒A:もっと●●するようになるためにはどうしたらいいだろう？



②児童生徒が“解決策”を調べる・考える(イメージ)

例:もっと●●

解決策の検討例



- 良質なユズの生産(産地のブランド化)
- 契約栽培(量販店・飲食店・宿泊施設等)
- ネットによる直販や輸入
- 売り物にならないユズの活用(精油等)
- 学園祭での販売等

- 専門業者への委託
- パワースーツやドローンの活用
- トゲから身を守る衣服・眼鏡の開発等

- CO2使用量削減に向けた日常の取組み

- 生産農家のインタビューを通じた魅力発信
- SNSでの募集情報の拡散協力等

①“対話を担う人材”の確保

①候補者(例)

住民の有志(受入家庭等)、ガイド、タクシーの乗務員、行政職員、首長等

②注意点

注1:無理強いをしないこと(低いモチベーションの方→対話の際に悪影響)。

注2:一方通行の説明をしないこと・答えすぎないこと(双方向の対話)



画像:南三陸町観光協会の動画より



画像:東日本大震災から3年後の講習

② “事前学習”の情報提供

～訪問地に係る情報提供・教材・講師派遣など～

学校では児童・生徒に“1人1端末”を提供



“オンライン”による震災語り部講話
(南三陸町観光協会)



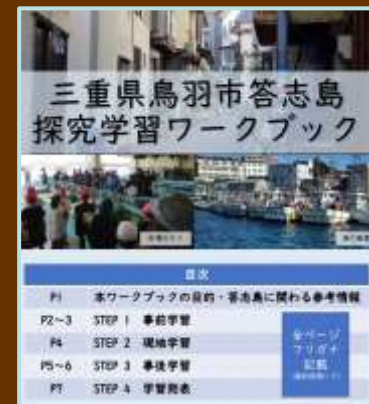
所要時間:60分

定員:なし

1団体1回

16,500円

三重県による事前学習
ワークブック・動画の公開



事例：三重県による事前学習の教材づくり

①受入地域でのヒアリング

- 地域の魅力・課題の抽出
- 動画に出演する人材等の抽出

②教材の制作

- 児童生徒向けのワークブック
- 地域の魅力・課題の紹介動画
- 教員向けの解説

③営業活動

(県内・近隣県の小中学校・旅行会社)

④県の公式サイトによる公開

大紀町の「里山里海の暮らし」の魅力と課題


魅力

里山里海の暮らし
大紀町内には熊野古道伊勢路が通り、古来から旅人が行き交い、外から来た人を受け入れてきました。そのため「さいこやき（おもてなし・気づかい）気質」が今も「体験民宿」の方々に引き継がれています。

豊かな自然を活かした様々な産業
森林と川・海が共存する大紀町では、自然を活かした様々な産業（例：農林漁業、商業、観光業など）が存在し、移住してきた人たちが活躍できる環境があります。

課題

人口減少による空き家の増加
近年、大紀町では人口減少による、空き家の増加が課題となっています。空き家の活用策として、「体験民宿」の開業による活用を進めています。



体験民宿オーナーご夫妻

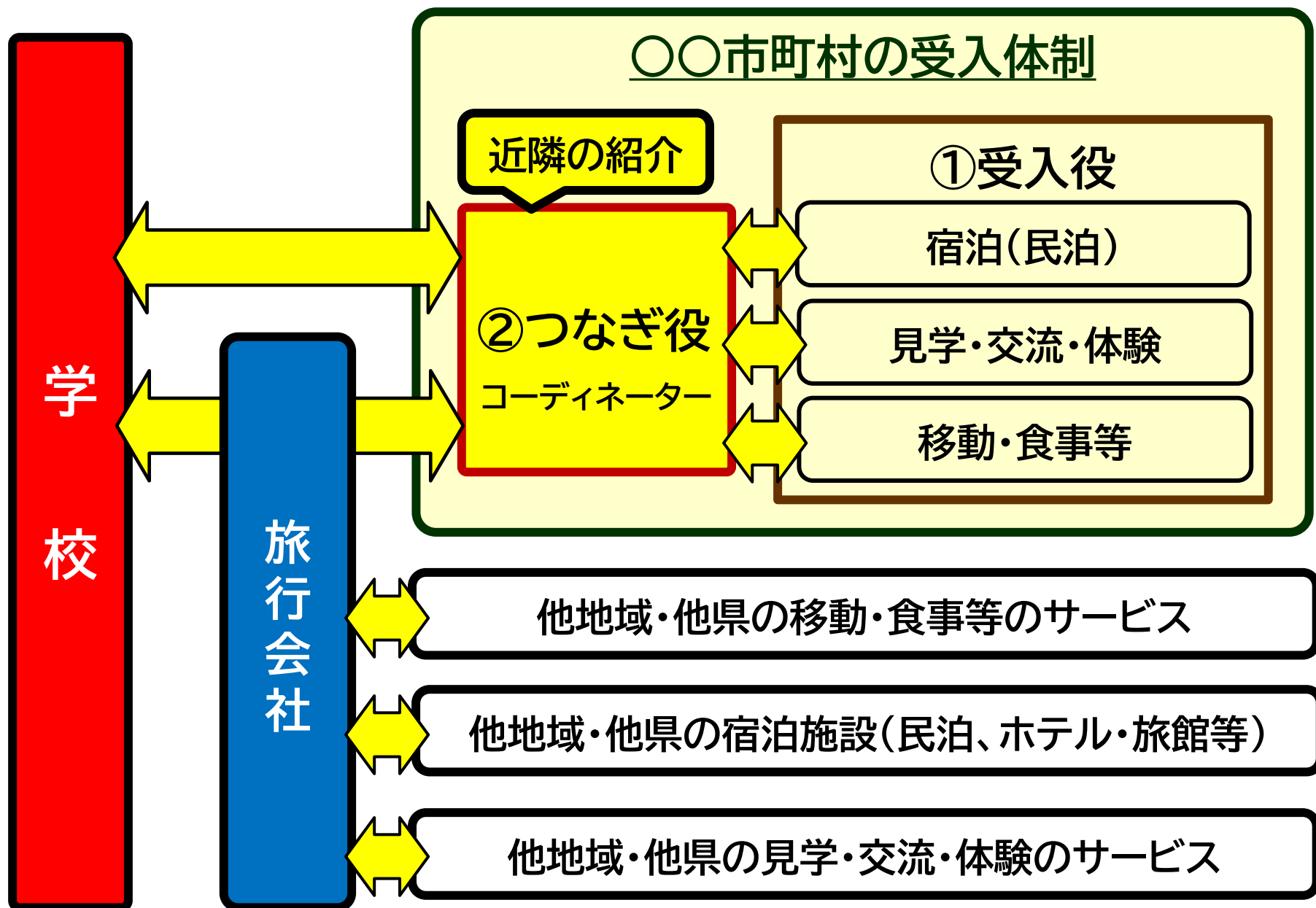


注：制作する際、情報の裏付けや画像等を使用する権利の確認が欠かせません。

参考：三重県 | 農山漁村振興：農山漁村地域での教育旅行向け「事前学習プログラム」

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOZUKURI/HP/m0278100153.htm>

学校・旅行会社が“他地域・他県への手配”を行う例もあるが・・



対策4：“受入家庭の確保”に向けた取組み(例)

- 受入予定の決定(仮予約)
- 各地区を廻って繰り返し説明(自治体職員の同行→信用度増)
- 説明会の開催(参加の呼び掛け)
 - 受入経験者(→口コミ・候補者の紹介)
 - 高齢者・定年が近い年代の方(ご婦人は必ず)
 - 食育・生涯学習・市民協働・移住等の関係者
 - JA婦人部・青年部、商工会
 - 小規模の宿泊施設等の経営者など
- 受小規模宿泊施設への働きかけ(民宿・ペンション・民泊等)
- 物価高騰に応じた料金値上げ
- 自治体の広報誌・チラシ等による募集
- 新聞等への掲載の働きかけ(信用度・関心度が高まる)
- 食事・体験の講習会の開催(受講者への声掛け)
- “お試し受入”のお願い(例:地元の児童等・日帰り)



震災後の移住者



Uターンした
受入家庭の子息



小規模旅館

①日帰りによる“お試し受入れ”（事例：日本が話せる留学生）



②“受入再開説明会”の開催



期待

○又小川=若者の交流
=生活や再生への期待

① 魅力
大連町を人の
旅し。

先達達には
田舎の良さを
思い出させて

~~先達達~~
先達達への
期待は、
30才30才
と聞くと、
20才50才可也

先達達への期待は
下町が
若者の交流の
場になる

子供達の交流は
楽しみ、20才50才
25才40才50才

①
色んな世代との
交流

住民の関心と期待
住民の関心(期待)が
積極的になり、
活動の場になる。

①期待
これに期待
活気よく

①期待
先達達には
今の流行を
聞かせよう

①
先達達への
期待

子供達と若作業
(1)一緒に食事作り
15才の楽しみ

(期待)

折米産地地域は
原産地と住民の
交流の場
(地域=住民と若者)

子供達の
交流の場
(期待)

①
日常生活の中で
子供達と
交流の場を
高齢者一人暮らし
への対応に
対応しよう



高松 事件 2017
成中 10 年

④
2017 年度 決算

⑤
高松 事件 2017
成中 10 年

⑥
高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

⑦
高松 事件 2017
成中 10 年

⑧
高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

⑨
高松 事件 2017
成中 10 年

⑩
高松 事件 2017
成中 10 年

高松 事件 2017
成中 10 年

対策5：“受入家庭が持つ不安感・負担感”の解消

□体験は「**生活(家事・家業)体験**」が基本であること(説明)

※農作業でなくても良く、家のお手伝いで構わないこと

□食事は「**家庭料理**」・「**共同調理**」が基本であること(説明)

※家庭料理を一緒につくって一緒に食べること(「旅館食」との違い)

□「**お土産・観光案内禁止**」の明確化

□「**我が家でできる食事・体験メニュー表**」の共有

※「**受入家庭の格差解消**」と「**繁忙期・連泊**」の対策にも

□「**受入家庭が懇親・講習できる機会**」を設け続けること

□受入家庭の集い→楽しい→続ける理由に

□先輩と後輩で組み合わせたグループワーク

→互いに相談できる関係づくりに

□料理等の講習会→後輩等を育成する機会に



受入家庭の皆さんで検討した食事のメニュー表(例)

		夕食のメニュー		朝食のメニュー	
① 主食	【説明】穀類。 米、パンや麺類 など	①ごはん、おにぎり、栗ごはん、 赤飯、山菜ごはん、チャーハン	②混ぜごはん(季節の食 材利用)、ちらし寿司	①ごはん	②掛けごはん (とろろ芋、卵)
		③寿司、海苔巻き(野菜入り・キュウ リ・玉子)、お稲荷さん	④めん類(ラーメン、ソバ、 うどん、ソーメン等)	③雑穀ごはん	④カレーライス(加工品 のルーを使用する場 合、原材料を確認)
		⑤餅(あんこ餅、納豆餅、黄粉餅等)		⑤パン (トースト、ジャム)	
② おかず	【説明】野菜、芋、 海藻、キノコ、豆 等によるおかず	①煮つけ	②煮物(根菜類)、おでん	①温野菜、サラダ、野菜 の炒め物、煮びたし	②焼き魚
		③天ぷら(野菜、アスパラ)	④つつみ揚げ(油あげ・も ち・もやし・人参)	③海苔	④納豆
		⑤炒め物	⑥野菜の素揚げ	⑤からし和え(水菜)	⑥漬物
		⑦豆腐ステーキ、大根ステーキ	⑧酢の物(菊・大根・人参)	⑦茄子のめたあえ	⑧えご
		⑨くるみ和え(人参)、ごま和え(ほう れん草)、マスタード和え(根菜類)	⑩じゃがいものキッシュ	⑨煮物(打豆・ごぼう・ 人参・油あげ)	⑩大根ぼし煮付
		⑪大根の切りずけ	⑫田楽、ねじりこんにゃく	⑪きんぴらごぼう	⑫胡麻和え
③ 汁	【説明】味噌汁、 すまし汁、スープ など	①味噌汁	②こづゆ(昆布・しいたけ)	①味噌汁	②こづゆ
		③スープ(たまねぎ・いも・ベーコン)	④けんちん汁	③トマト味スープ	④けんちん汁
④ その他	左列の①～③ 以外のメニュー	①里芋をそのまま少しつぶして片栗 粉をまぶして揚げる(塩少々)	②日本茶	①果物	②日本茶
				③ヨーグルト	